

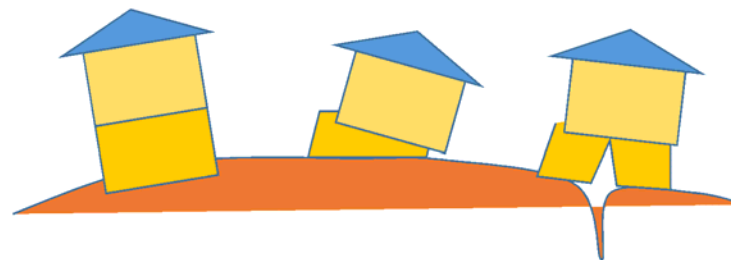
# 震災で被災した家屋をうまく再建できないだろうか？

## 背景1

- 強靱な国土作りとしての社会資本整備・更新が唱えられていますが、  
⇒現実には老朽化が進行しています。
- また、安定な基盤のうえに建物・構造物を作っているはずですが、  
⇒地球温暖化のせいでしょうか想定外の豪雨災害や、このたびの熊本地震のように、不意を突かれる大災害が発生しました。
- 公共構造物は税金で復旧できますが、  
⇒一般家屋や民間施設の場合は、復興助成金は多くても300万円程度と僅かです。  
⇒しかも、被災のレベルによってその金額も少なくなります。二重ローンをしながら、大きな負担のなかで再建をせざるを得ないというのが原状です。
- 仮設住宅に入っても  
⇒原則2年。その後は恒久住宅の整備状況や地域の復興状況をふまえて、1年ごと更新されている状況にあります。

## 背景2

- 一方、仮設住宅の建設費用は東日本大震災の頃よりもかなり高騰していると聞いています。
- 熊本の震災では、地震の揺れと直下型地震による「隠れた断層」「見えない断層」が顕在化して、より大きな被害が生じました。
- 新築に近い建物も1階が壊れ、あるいは地盤の変形により傾くなどして、見えそうに見えても現実には通常の生活は不可能。しかも安心できません。
- 断層の影響によって転居が必要とされますが、地元への愛着を断ち切らなければならない、あるいは高齢のため転居のすべが見つからない。
- 地域コミュニティの崩壊にも繋がります。



# こんなことができないだろうか？

## ■疑問点や課題

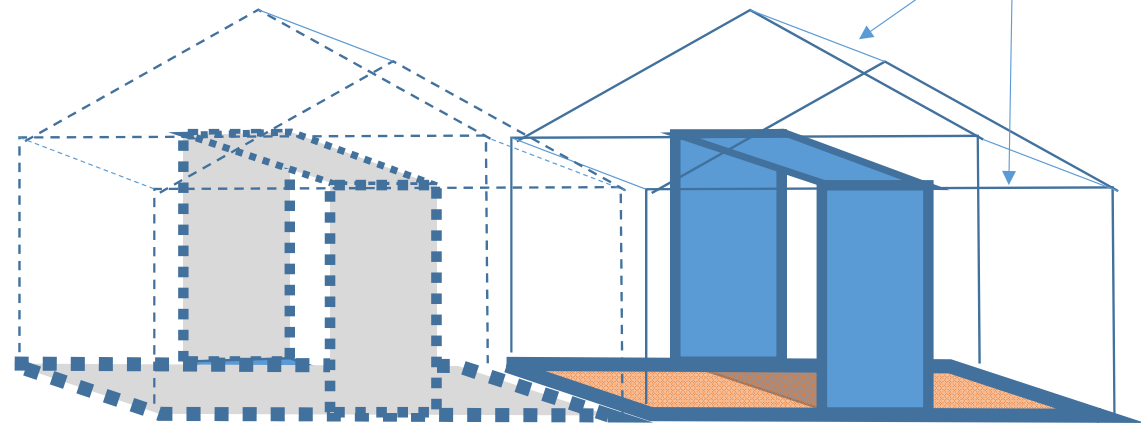
- ①基礎の上に住宅を建てているため、基礎が壊れたり傾くと、家は壊れ、修復が出来ない。
- ②例えば1階が壊れても、2階の部材は壊れていない。廃材にするのはもったいない。
- ③直下型地震の激震においては家屋のなかでも安心できる空間がない。
- ④再建するときに、これまでの大きさの家屋が資金的に困難をとまなう。

## ■何かできないだろうか？

- ④まず、最初は小さく安く、復活のきっかけとなる「小さな家」をつくれませんか？
- ①建物の基礎は、地盤の変状に対して強く、また修復しやすい構造に出来ないか？
- ②壁材や屋根材、床材は変状していない（少ない）建築部材を再利用して、パネル方式で組み立てられないだろうか？⇒リフォーム
- ③建物のなかに剛性の高い空間を作り、いざと言うときにはその空間に寄り添うようなことは出来ないか？⇒シェルター

# 解決のためのヒント・アイデア??

無傷にちかい家屋の部材を面状のキッドにして組み立てる。  
一部でも愛着がつけられる。



コンクリート部材は外部調達が必要であるが、  
面状部材は、コンパクトなキッドにする方法をDIYで行なえるようにする。  
将来は産業化ができるかな？

お金ができれば増設する

コンクリート構造で強い構造いざと言うときにこの空間に逃げ込める  
不同沈下が生じたらジャッキアップできる。